

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ひらぎの学童クラブ プリズム			
○保護者評価実施期間	R8年 2月 3日		～	R8年 2月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26名	(回答者数)	25名
○従業者評価実施期間	R8年 2月 3日		～	R8年 2月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数)	12名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 25日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児と職員間の信頼関係の深さを感じる。入所時に利用児と職員がしっかり関係づくりを行い、のびのびと安心して過ごすことができるようになることで、リラックスして療育に取り組むことができるようにしている。	職員は利用児一人ひとりに寄り添い、同じ目線で物事をとらえるようにした。入所当時は特に、無理強いせず、職員と一対一の関係づくりを大切に、一人ひとりの利用時にとって、心の安心基地になれるように努めた。	職員との一対一の関りの時間を大切にする。また、遊びの中に支援ポイントを盛り込むことで、利用児が楽しみながら療育を受けることができるようになりたい。また、日々の様子をこまめに保護者様にお伝えすることで、成長や育児の喜びを感じたり、安心して通わせることができるようにしていきたい。
2	友達との関わりを大切にしている。入所当時、他児に興味の無かった利用児も、力を合わせたり、一緒に色々なことを感じたりすることで、だんだん友達になっていき「友達と一緒になら苦手なこともちょっと頑張る」「大好きな〇〇君が悲しい顔をしている」等、友達の存在のおかげで成長へつながることが多くある。	活動の中で、意図的に友達と関わりを持たせたり、責任を持って取り組むことができるようにしたりしている。リーダー性や友達を思いやる心、友達に合わせる力などが育ってきている。友達という存在が大きくなってくると、苦手な活動や集団活動へ参加できるようになってくる。また、SSTに取り組み、友達の気持ちに気づくことができるようにしている。	現在も行ってはいるが、利用児同士で相談した内容の行事を開催すると良いと思う。利用児が主体的に取り組むことで、苦手な事への挑戦、成功体験からの自己肯定感の向上、失敗体験からの反省等、様々な経験、成長が期待できる。
3	社内にひらぎの保育園、ひらぎの学童クラブ等複数事業を展開していること。日頃から全職員がインクルージョンを意識し、学童クラブと一緒に遊んだり、保育園児との交流活動等を行うなどして、意図的にねらいを持ち関わるができるようにしている。	利用児や保護者の要望を聞き、希望者は学童クラブと併用して利用できるようにしている。学童クラブの大人数の集団に少しずつ慣れたり、友達関係が広がったりしている。また、支援会議を開催することで、職員間が共通理解を持ち、同じような支援が提供できるように工夫している。	マルシェの合同開催などを計画している。現在は放デイのみの開催、地域との関わり場にしているが、数回開催し、学童クラブの児童も興味を示していることから、準備の段階から子ども同士で相談、用意をし、開催につなげることができれば、お互いの成長へつながるのではないかとと思われる。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会の活動の支援や、きょうだい同士の交流ができるイベントの開催などができていない。	父母の会の設立を望まない声の一部から上がっており、設置していないこと。 兄弟同士が交流できるイベントを開催することはしていないが、行事と一緒に参加することができるようにしている。	父母の会の設立については、今一度保護者様よりアンケートを取り検討をする。 兄弟同士が交流できるイベントについては検討していく。
2	面積要件にはかなっていないものの、利用児数に対しての療育室の狭さについての不満が、保護者、職員の双方から聞かれる。音についても気になり、落ち着かない様子が見られる。	定員を20名にしていること。また、低学年の入所が昨年、今年と多く、行動も幼いために全体的に落ち着かない雰囲気になってしまう。	令和8年度より2事業所に分け、それぞれを定員10名ずつとすることにした。また、部屋の面積は同じため、ゆったりとした環境を用意できるのではないかとと思われる。
3	事業所として災害時に備え、安全管理計画を定めていることや、各種マニュアルを制定、避難訓練を実施していることを保護者様に十分に周知できていないこと。	安全計画や各種マニュアルを保護者様がいつでも見ることができない状況になっていること。また、避難訓練の実施についても、報告をしたりしなかったりしていること。	HUGのサービス提供記録などを利用し、訓練実施時には保護者様に報告をする。また、マニュアルについては、保護者様がいつでも見ることができる場所においておく。通信などを発行し、開催したことについて、周知する。日頃から災害を想定していることを保護者様に知らせることで、安心感を感じていただけるようにする。